

## 紹介

## ● 出雲國風土記考證 後藤藏四郎著

本書は著者が嘗て古代の出雲國の地圖を作らうとして出雲國風土記の研究中、有名な國學者の校正を経た出雲國風土記解や出雲國風土記考にも隨所に誤謬があることに氣附いて出雲國風土記考證を發表した後、島根縣皇典攻究分所が企てた出雲國風土記本文の校訂事業に加はり、諸種の古寫本を見る機會を得て更に研究を進める。共に前に發表した考證をも訂正して、こゝに本書を出版するに至つたものである。本文の註釋は大體古來の註釋書に基いてあるが多少の新見もあり、特に地理に就いてはよく實地について綿密に考證し、從來の諸説の誤謬を訂正するところが多く、古代歴史地理の研究者に裨益する所が鮮少でない。末尾に附した索引も便利である（四六版、三九五頁、東京大岡山書店發行、價三・二〇）〔松野〕

● 西南文運史論 文學士 武藤 長平著

本書は著者が第七高等學校教授として薩南の地にありし十有五年間に舊家の祕笈を探り史蹟の實際を踏査して九州地方ミ琉球、支那、南洋、西洋諸國ミの史的關係を調査し機に觸れて藝文其他の學術雜誌並に新聞紙上に發表せられた三十七篇の論文を纏められたもので、此種の書籍の皆無なる現今の日本史學界東洋史學界の缺陷を補はれたものである。凡そ地方史の研究はその人を得ざれば概して畫虎類犬の結果を招き易い。然るに研究者にその人を得、學術的價値高き結果を得たる西南日本は實に幸福ミ謂はねばならぬ。新村博士の序文に「西南地方の分に於ては武藤君の研究から啓蒙されたこゝが多かつた」ミあり、内藤博士の序文に「君が撰著は各種の問題に涉り暗示に富み、將來の研究者を裨益すべき長所も有す」ミある通り、決してありふれた地方史書ではなく、著者の學に忠なる眞摯なる面目が躍如ミして卷中に溢れて居る。四十五葉の挿畫ミ二葉の口繪も亦美麗精巧で何れも稀觀のものばかり、眞に錦上添花を添へて居る。國史東洋史支那文學に志す士には勿論、好古の清癖ある人に